

九州南部では5月の地域平均降水量が統計開始以降、最も多くなりました

- 九州南部(奄美地方を除く鹿児島県と宮崎県)の5月の地域平均降水量は、統計開始以降、最も多くなりました。
- 九州南部の特別地域気象観測所の2地点で5月の月降水量は統計開始以降、最も多くなりました。

1. 九州南部の5月の地域平均降水量は、統計開始(1946年)以降、最も多くなりました。

表1 九州南部の5月の月降水量が多かった年と地域平均降水量平年比

	2021年	これまでの1位	これまでの2位
5月の平年比(%)	205	202(1980年)	186(1953年)

地域平均降水量平年比は、いつもの年(平年)と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、九州南部は9地点(宮崎、延岡、都城、油津、阿久根、鹿児島、枕崎、種子島、屋久島)における降水量の平年比を平均して算出しています。

2. 九州南部では特別地域気象観測所の2地点(阿久根、都城)で、5月の月降水量は統計開始以降、最も多くなりました。

表2 気象官署及び特別地域気象観測所の5月の月降水量

順位	地点名	値(mm)	平年値(mm)	平年比(%)	これまでの1位(mm)(西暦年)	統計開始年
1	阿久根	629.0	188.1	334	404.2 (1953年)	1940年
1	都城	602.5	207.8	290	486.0 (1980年)	1943年
3	鹿児島	470.0	205.2	229	558.5 (1980年)	1883年

統計期間の50年以上ある9地点を対象。

3. 記録的多雨になった要因

偏西風が蛇行し、日本付近で平年より北を流れ、前線帯が平年より北に位置したことや、太平洋高気圧が本州の南海上で強く、高気圧の周辺を回る湿った空気が西日本に流れ込みやすかったことから、前線の活動が活発となったことと考えられます(別紙参照)。

問合せ先：鹿児島地方気象台 季節予報担当(茶屋)
電話 099-250-9912 FAX 099-255-4234

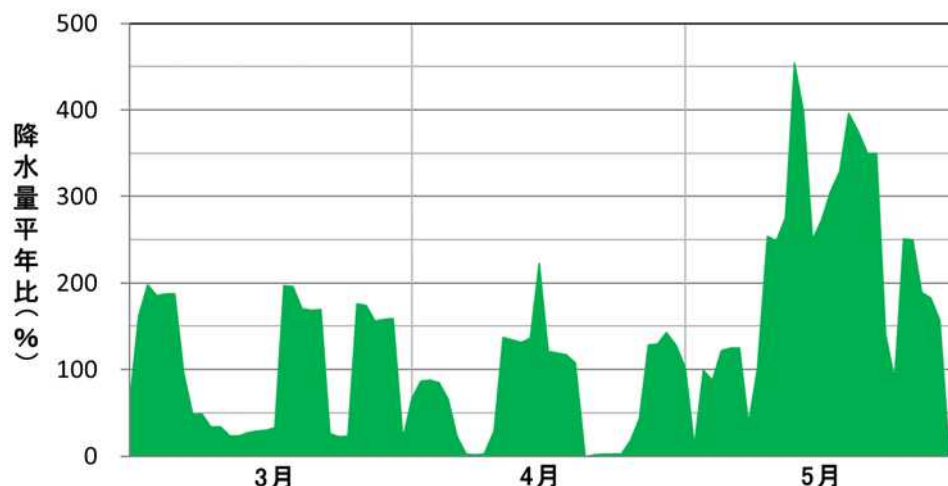


図1 九州南部の地域平均降水量平年比の時系列（5日移動平均値）
（2021年3月～2021年5月）

地域平均降水量平年比は、いつもの年（平年）と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、九州南部は9地点（宮崎、延岡、都城、油津、阿久根、鹿児島、枕崎、種子島、屋久島）における降水量の平年比を平均して算出しています。

多雨となった要因

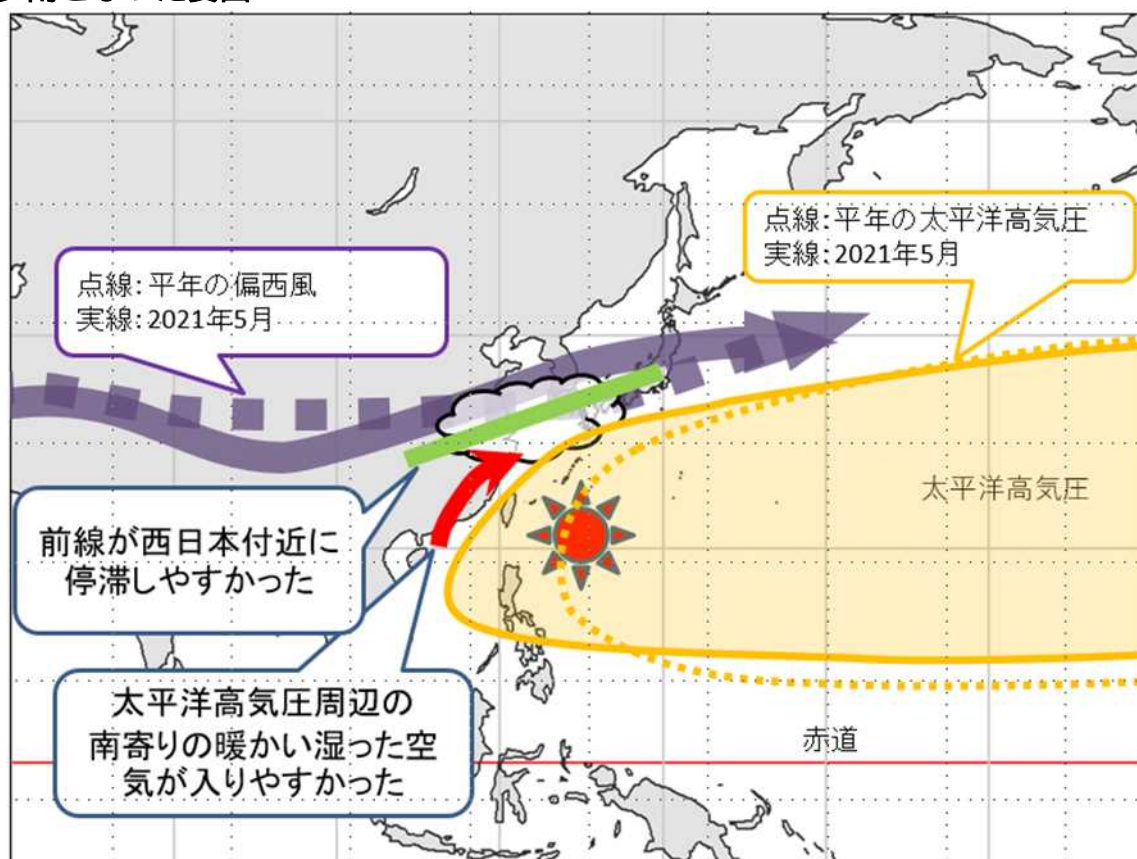


図2 2021年5月の平均的な大気の流れの模式図

- 偏西風は、日本付近では平年より北を流れ、前線帯が西日本付近に停滞しやすかった。
- 太平洋高気圧が本州の南海上で強く、高気圧の周辺を回る暖かい湿った空気が流れ込みやすかったことから前線の活動が活発となった。
- 特にこれらの特徴は5月中旬に明瞭となった。